

情熱 責任
真摯 覚悟

埼玉県議会議員

宇田川 ゆきお

県政報告

令和4年 4月29日発行 春号 Vol.18 (改訂版)

発行:埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所 〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055 FAX.048-934-7099



コロナ禍を 乗り越え確かな未来へ!

巻頭所感

~新しい夢を育み、力を合わせ、実現へ~

中川・綾瀬川に着目して まちづくりを考える…。

心地よい春風に誘われ、川の駅・中川やしおフラワーパークへ行ってきました。残念なことに新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例年開催されてきた「花桃まつり」は中止。それでも花桃(八潮市の花)と菜の花の描き出すコントラストは人々の心を癒していました。八潮市観光協会ではお祭りイベントに代わり「花桃ウォーキング」「デジタルスタンプラリー」などを企画し、コロナ禍での市民サービスに取り組んでいました。

会場をゆったり流れる中川を眺めていると、この川は八潮市民の象徴であり、まちづくりの資源だと確信。現代は、トラックや鉄道輸送が物流の主流ですが、歴史的には舟運により地域経済を発展させてきた経緯があります。中川は人々の暮らしの中の大動脈であり、大消費地・東京(江戸)との交易の中核を担うものでした。埼玉県で収穫された農産物を出荷し、帰りには肥料の原材料や日用品な

どを運んだと伝えられています。時代と共に都市化が進むと、川への対応は治水対策に重点が移されていきますが、地域社会の発展を包括的に見るなら中川・綾瀬川などの河川を軸にした広域的視点でのまちづくりを考える必要があると思います。最近、その重要性をつくづく感じています。

川の歴史を紐解くと 広域の視野が開ける…

ところで広域行政の手がかりになるようなイベントが足立区で開催されました。花畑運河開削90周年記念講演会「花畑

運河の今昔、そして未来」です。基調講演によると大正10年の調査では中川の船運により埼玉県の農産物を年間4,200トンほど都内に運んでいたことが示され、物流の拠点だったことを説明。さらに利便性を高めるために中川・綾瀬川を結ぶ花畑運河を新規開削し、それが大正8年に施行された都市計画法に基づいた工事であることから、近代の産業遺産に位置付けられているとのこと。

一方で1日に200艘を超える利用者の多くは埼玉県に由来し、船の往来の背景には八潮市をはじめとした中川・綾瀬川コミュニティの存在が伺えます。

【2面に続きます】



八潮市と東京都のネットワークを活かす!

高島なおき都議・自民党都連幹事長と
都県境の事業について構想を語りあう

【宇田川ゆきお・経歴】●昭和53年八潮市八條生まれ●八潮市立八條中学校卒業●浦和実業学園高等学校卒業●東京コミュニケーションアート専門学校卒業～音楽の道へ●八潮市議会議員選挙にて初当選●専修大学法

学部中退●平成21年、八潮市議会議員選挙にて二期目当選●平成27年、埼玉県議会議員選挙にて初当選●平成31年埼玉県議会議員選挙にて二期目当選●現在:県議会・自然再生・循環社会対策特別副委員長●議会運営

副委員長、福祉保険医療委員長など歴
任●所属団体:八潮市商工会青年部OB
会、八潮市消防団、八條有志クラブ他
www.udagawayukio.com/



八潮の将来、埼玉の未来へ。宇田川の

【1面からの続き】

県都境としての 八潮の利点を活かす！

さらに、歴史を振り返れば、明治政府によって、武蔵国内の旧幕府領・旗本領の管轄のために、明治2年に小菅県(県庁は現東京拘置所のあたり)が設置された時期

もありました。その管轄区域は、足立区・葛飾区・草加市・八潮市などであり、ここでもまさに同根だったわけです。

このようにみえてくると、南部を東京都に隣接する八潮市は、歴史的にも、そして、現在のつくばエクスプレスと首都高で結ばれた交通体系からも、東京都との連携が重要だと思われま

私はそのような視点をもって、八潮市のまちづくりを県・市、そして都とも十分に話し合いながら進めていきたいと思っています。引き続きのご理解をお願いいたします。

埼玉
県議会議員

宇田川幸夫

大型予算を採択、2兆2284億5900万円(前年度比5.1%増)

宇田川ゆきおの活動もかたちに…。

令和4年度予算の概要について、その概要をご紹介します。詳細は埼玉県ホームページの令和4年度予算をご覧ください。

子育て世帯の医療費負担… 償還払いから窓口無料化 (現物給付)へ

今回の予算でも、宇田川ゆきおが力を入れた分野が着実に事業として実現・拡充しています。

まず、「子育て世代の医療負担の軽減」が実現しました(予算総額93億504万3千円)。これは乳幼児や重度心身障害者、ひとり親家庭などの医療費を助成するとともに、受給対象者のうち未就学児について、県が市町村に補助を行うことで令和4年10月から県内全域での窓口無料化を実施するものです。

これまでは医療機関にかかる際、窓口で支払いをし、その後市町村に、窓口支払い分の申請を行い、払込を受ける償還払いでしたが、窓口での支払いは無しで医療の提供を受けることができるようになります。(医療機関には市町村から支払われます)

これにより使い勝手が大幅に向上します。

在宅医療体制の整備… アドバンス・ケア・プランニング (ACP)の導入

宇田川ゆきおがかねてから主張していた「在宅医療提供体制の整備」も拡充が図られました(予算総額3914万円)。

これにより、人生の最後まで住み慣れた自宅などで療養できるよう在宅医療体制の整備を推進、在宅医療を担う医師の育成や将来の変化に備え、本人・家族・医師などが話し合い、対応するアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の普及や在宅緩和ケアを担う人材育成などが進められます。

「犬猫殺処分数ゼロ」も 条例化で前進。その他、事業 にも引き続き、努力します

先に宇田川ゆきおが仲間たちと実現した条例改正を受けて「犬猫殺処分数ゼロ」に向けた取組も予算を確保(予算総額5409万8千円)、事業化されます。



これにより野良猫の不妊・去勢手術費用補助や犬猫の譲渡を一層推進すると共に動物取扱業者への監視指導、動物愛護団体などと連携した収容動物の譲渡推進ミルクボランティア制度の実施、福祉施設などでのアニマルセラピー活動の実施が進みます。

これら以外にも今回の予算には皆様とともに進めてきた、ヤングケアラーへの支援、周産期医療体制の整備、保育士等・放課後児童クラブ支援員等の処遇改善、中小企業の事業再構築等に対する支援なども盛り込まれています。

さらにガソリン価格の高騰について、議会運営委員会できりとまとめ、3月25日、国に提出した対応を要望する意見書を受け、このほど、ガソリンなどの価格を抑えるための石油元売り会社への補助金も1リットルあたり25円から35円に拡充されることになりました。

(八潮市の県事業抜粋は右頁をご覧ください)

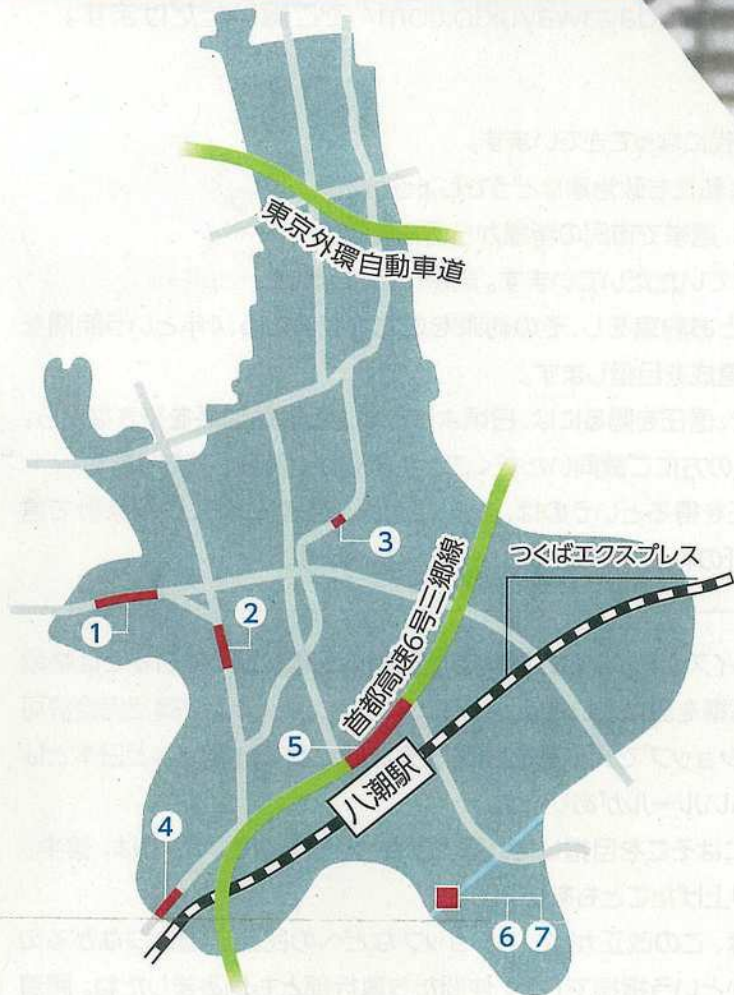
今後も事業の状況を注視し、皆様のご要望が反映されるよう、努力してまいります。

きおは走ります。

埼玉県議会令和4年2月定例会は、2月17日から始まり、3月25日に閉会しました。今議会では、2兆2,284億5,900万円の「令和4年度埼玉県一般会計予算」が決定しました。そこで本稿ではその概要をお伝えいたします。

令和4年度予算・八潮の事業

地元の皆様と力を 合わせて進めます



また、店舗が多く、自動車だけでなく歩行者や自転車も多い沿線です。特に、店舗だけでなく小学校も近くにあり、人の往来が多いこの箇所について、誰もが安心して安全にさらに円滑に移動できる通行空間となるように、段差のない歩道の整備などを実施します。誰もが安全に安心して暮らせるまちへ向けてバリアフリー対策をしっかりとしてまいります。



③ 自転車歩行者道整備 (平方東京線)

八潮市役所や八潮中学校、また金融機関等が近く、通学のみならず自転車利用の多いこの箇所について、自転車利用者の安全や歩行者の安全、安心のために自転車歩行者道を整備します。歩行者、自転車、自動車の事故を防ぎ、市民のみなさまの安全を守るために危険な箇所の除去にこれからも取り組んでまいります。



① 街路整備 (草加三郷線：西袋工区)

柳之宮橋周辺については、現在仮橋の工事が着々と進んでいます。それに伴い、綾瀬川西側では北側に迂回路が開通されています。今回の予算では、綾瀬川西側南側にも迂回路を開通するための費用の一部として予算がつきました。迂回路開通にともなう、用地買収費用や補修費、また、柳之宮橋の撤去費用の一部に充てられます。柳之宮橋を中心とした、街路整備は、車や人の流れを変え、また八潮が中心となり埼玉東部の主要都市間をグッと近づけるダイナミックな事業です。道路の利便性の向上だけでなく、八潮市が交通の要となるように持前のフットワークで近隣の市と調整しながらよりよいまちづくりを進めてまいります。



④⑤ 舗装道路整備 (平方東京線・八潮三郷線)

都内から三郷市へ通じるこの道路は流通の要であり、輸送車、トラックの往来の多い道路です。そのため、損傷も早く、道路利用者の方々の安全や安心のためのメンテナンスがより必要なる路線です。しっかりとメンテナンスをし、都内に隣接するまちとして、東京都ともしっかりとタッグを組んで、道路を通じて、「まち」と「ひと」に安全と安心を届けてまいります。



⑥⑦ 圪川排水機場耐震整備・河川事業

もう異常気象ということばが、通常使用されるようになって久しく感じます。川に囲まれたまちである八潮市にとって、台風などによる川の増水からまちとひとを守るために、排水機場の耐震整備、河川事業を行います。排水機場の機能が十全に果たされるようにしっかりと対策を行います。



② バリアフリー安全対策 (越谷八潮線)

越谷八潮線(いわゆる産業道路)においてはバリアフリー安全対策を行います。この道路は、八潮市内においても交通量が多い、市の要の道路の一つであり、



宇田川ゆきおのヒトツキ 考えていること、感じたこと…。

宇田川ゆきお県議は、ホームページのヒトツキというコーナーで毎月、折に触れて、考えていること、感じたことを連載しています。そのことを知った方の中から、どんなものなのか、ホームページではなく、紙面でも読んでみたいという声をいただいたので、紙面に併せて一部を編集し、転載します。なお、オリジナルは <https://udagawayukio.com/> でご覧いただけます。

企業価値の「のれん」を政治にも 〈ヒトツキ 令和4年1月 掲載〉

私は、起業支援や産業育成の政策を考えるために、時々、企業会計の本を読んでいます。その企業会計の中に「のれん」という言葉があります。これは要するに、その企業の技術力や固有のノウハウ、ブランド力などで、企業価値とも言い換えられます。

この「のれん」には、特許・意匠・商標のように、一般的に公表すると価値になるものもありますが、企業秘密とされる部分も含まれます。企業価値を高めていくには、どこまでを公表するか、マネジメントすることが重要です。大きな流れとしては、近年、「のれん」を公表していくことが求

められる時代になってきています。

ところで、私たち政治家はどうでしょうか？

私たちは、選挙で市民の皆様から信任を賜り、仕事をさせていただいています。選挙の時に公約を示し、皆様とお約束をし、その約束を成功させるため、4年という時間をいただき、達成を目指します。

引き続き、信任を賜るには、日頃より皆様方と信頼関係を築きながら、政策を多くの方にご賛同いただくことが重要かと認識しております。

この信任を得るといのは、まさに無形の価値であり、企業会計で言うところの「のれん」にあたるのかなと思われま



「動物愛護条例」で悩んだこと 〈ヒトツキ 令和4年2月 掲載〉

前号の県政報告(令和4年新春号)でご紹介した「動物愛護条例」の途中の過程について、少し触れたいと思います。

きっかけは、「日頃から交流をしている動物愛護団体の皆様からの今のペットの環境、特に一部の劣悪な環境で過ごしているペットをもっと守ることが出来ないか」というご相談でした。

そのためには現行の条例を改正する必要があり、いままでの経緯や海外の事例を調べながら、「動物愛護」について今一度、考えました。

今、世界の大きな問題として、格差の拡大が叫ばれ、社会の分断が危惧されています。

私が今回、取り組んだ根っここの部分には、動物愛護が、他者に寄り添い、優しさと思いやりのある社会を育むことにも繋がり、格差の是正や

分断の解消にも生きていくと信じたからです。そして、子を持つ親として、次の世代にもこの想いを共有して欲しいという教育としての大切さも後押ししました。

実は、動物愛護の先進国といわれ



る英国、スイスやドイツなど欧州では動物の保護に関して日本とは格段に厳しい基準を設けています。例えば、ペットショップは法律で完全許可制、ペットショップで犬や猫の陳列販売を行われていないなど日本とは格段に厳しいルールがあります。

最終的にはそこを目指したい訳ですが、今回の議論の中では、途中、暗礁に乗り上げたこともありました。

悩んだ点は、この改正がペットショップなどへの民業圧迫につながるのではないかという指摘でした。仲間たち執行部とも悩みましたね。膠着状態でした。

そのとき、日ごろから指導を受けている先輩県議から受けた「条例を作る以上は『世界基準』の視野をもって、欧州レベルを目指すべき」という言葉に背中を押され、悩みが一気に吹き飛び、前へ前へと進むことができました。

結果としては、当初の狙いを後退させることなく、その一方で、民業圧迫の心配に応えるため、条例には財政的支援を盛り込みました。業者の皆さんにも、欧州レベルの動物愛護精神をもったブリーダー制度に近づける努力をしていただけるような条例改正となったと思っています。

引き続き、動物たちが安心して安全に過ごすことのできる環境が実現できるよう、取り組んでまいります。

ご利用ください。メニューがリニューアルされました！

埼玉県LINE公式アカウント
埼玉県-新型コロナ対策
パーソナルサポート

まずは「友だち登録」から。
新型コロナウイルスに関する
情報をお知らせします。



国と県、両方のアプリの活用をお願いします。両方を使うことで一層の感染拡大防止効果が期待されます。

「場所」に注目！

埼玉県
LINEコロナ
お知らせシステム

施設やお店などに掲示してあるQRコードを訪問する度にスマートフォンで読み取り、訪問日時を記録。後日、その施設などを訪れた方が陽性となった場合、その方に濃厚接触した可能性のある方に対し、窓口への相談を促すメッセージをLINEでお知らせします。
県感染症対策課 ☎048-830-7502

「人」に注目！

厚生労働省
新型コロナウイルス
接触確認アプリ(COCoA)

Bluetooth機能により、スマートフォン同士が近接した状態(概ね1メートル以内で15分以上)を「接触」として検知。アプリに記録。アプリをインストールしていた方が陽性となった場合、陽性の方ご自身がアプリで陽性登録。「接触」記録のある方のアプリにお知らせします。
厚生労働省 ☎03-5253-1111(代)
COCO A サイト▶



ご意見をお寄せ下さい

宇田川ゆきお県政事務所

〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055
FAX.048-934-7099 E-mail.contact@udagawayukio.com

情熱 責任
真摯 覚悟

埼玉県議会議員

宇田川 ゆきお

県政報告

令和4年 11月27日発行 11月号 Vol.19

発行：埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所 〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055 FAX.048-934-7099



政治の使命を考え、 経済・社会の変化に備える

巻頭所感

防災、環境、経済安保、少子高齢化…

八潮生まれ、八潮育ちの私は、生粋の八潮っ子です。ふるさとを愛する心は、家族を愛し、友だちや仲間を愛することに繋がります。自分たちの住むまちをさらに住みよいまちに創り変えていくには、歴史や過去の伝承・言い伝えなどを知ることが大切です。八潮には多くの民話が残されています。

古くからの歴史を持つ八潮、 地勢から地域の特性を知る

八潮市は地勢的には海だったようで、少し掘れば牡蠣殻が出てきたり、丸木舟の話が伝えられていたりします。平成24年の発掘調査では9世紀中頃から後半の住居跡が確認されました。このことは学術的に1,000年以上前から地域社会が存在した証になります。海であったところが低地になり、市内全域が平坦な土地であることは農耕に適した土地だと言えます。

また、八條諏訪神社（宝徳元年・1449年勧請）や無量山浄光院大経寺

（天正14年・1586年開山）の話が出てくると、この地に暮らしていた人々が日々の生活の中で神仏に帰依してきたことが理解できます。

江戸幕府が開かれる前の文亀4年・1504年には、この地で八条惟茂（はちじょうこれしげ）が新方頼希（にいがたよりき）と戦ったと伝えられていますが、天領（幕府直轄地）となってからは領地をめぐる争いは見当たりません。安定した世の中になると、將軍の鷹狩の話が伝えられ、江戸城から八潮周辺まで遠征してきたことが伺えます。東京拘置所のあるところは小菅御殿と言って徳川將軍が鷹狩りの際の休憩所として設けた屋敷がありました。

しかし、豪雨や洪水との戦いは激烈です。今に伝わる又右衛門堀の話は干ばつや淡水から田んぼを守り、美田にしようとした提案しましたが村人の賛成を得られず、矢野又右衛門が自費で堀を掘った話です。

地域の課題解決に邁進、 それは昔も今も同じ…。

民話や歴史をふりかえると、まちづく

りは災害との戦いでした。自然災害との戦いは終わったように見られてきましたが、近年、線状降水帯や台風に襲われれば洪水の危険が増し、河川の氾濫が心配されています。

さらに、自然災害だけでなく、少子化、高齢化という社会構造の大きな変化の激流に私たちは晒されています。

また、ロシアのウクライナ侵略に端を発したエネルギーや食糧の急激な高騰は経済を圧迫し、まさに人為的な大災害です。

このように見てくれば、住む人たちが、その地域でいかに安心し、そして人とのつながりを感じながら幸せを育んでいけるのか、その根本的な課題の解決と挑戦がまさに政治の使命なのです。

そういったことを考えながら、抜本的な対策を講じるため、次の世代によりよい社会をつなげるため、私はこの八潮市を舞台に全力を尽くして参ります。

埼玉県議会議員

宇田川幸夫

【経歴】●八潮市立八條中学校卒業●浦和実業学園高校～東京コミュニケーションアート専門学校卒業●明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科修士MBA（経営学修士）●八潮市議会議員選挙にて初当選

●平成21年、八潮市議会議員選挙にて二期目当選●平成27年、埼玉県議会議員選挙にて初当選●平成31年埼玉県議会議員選挙にて二期目当選●現在：県議会・自然再生・循環社会対策特別副委員長●議会運営

副委員長、福祉保険医療委員長など歴任●所属団体：八潮市商工会青年部OB会、八潮市消防団、八條有志クラブ他
www.udagawayukio.com/





青木かつのり葛飾区長(左)と…。

宇田川ゆきおの 政策テーマ 「都県境」

八潮市のポ 都県境の都

今回から3回シリーズで宇田川ゆきお

隣接する葛飾区・足立区の 皆さんとも積極的に 意見交換、スクラムを組み 八潮の魅力を引き出す

東京都と埼玉県との結節点に位置する八潮市に都県境の都市としての魅力をつくらうというのが、宇田川ゆきお県議のかねてからの主張です。

先日、宇田川ゆきお県議は、青木かつのり葛飾区長と、八潮市と葛飾区の今後の連携について意見交換を行いました。これまでも両者で都県境にある課題や可能性について継続的に対談を行い、方向性を確認してきました。

例えば県道八潮金町線において、八潮市の古新田地区と葛飾区の水元地区を結

ぶ計画は、県議の先輩方のみならず、市議会の諸先輩方も取り組まれた課題でした。

また、これまでも八潮市、三郷市、葛飾区、足立区の市議・区議の先生方で協議会をつくられた経緯もあります。この想いを引き継ぎ、葛飾区の青木かつのり区長、足立区選出の高島なおき都議会議員と連携し、地域の方々のお声を聴きながらさらに取り組んでいく決意です。

八潮と葛飾をつなぎ、 公園・マリーナを活かし 安らぎ・にぎわいを創出、 さらに防災にも強いまちへ

みさと公園、水元公園と古新田地区がつながることは、防災対策、災害時の避難

などの観点からも重要です。水元方面と古新田がつながることで葛飾区の方が八潮駅や古新田地区を利用できれば、経済の活性化、にぎわいの創出も期待できると宇田川ゆきお県議は主張します。

そこでは都立の水元公園やみさと公園へのアクセスインフラとして「橋」が重要となってきます。



宇田川ゆきおのライフワーク、もっと便利で使いやすく…。子育て支援がさらに前進!

福祉3医療費制度の受給資格がある未就学児の医療費について、 全県で窓口負担ゼロを実施へ

福祉3医療費制度(①乳幼児(子ども)医療費支給事業、②重度心身障害者医療費支給事業、③ひとり親家庭等医療費支給事業)の受給資格がある未就学児(小学校入学前の子ども)の医療費について、これまでは、主に各市町村内の医療機関でのみ窓口負担ゼロ(医療費を窓口で支払うことなく医療サービスを受けられること=現物給付)が実施されていました。

しかし、これまではお住まいの市町村内でしか実施されていなかったため、例えば県内でも外出した際、病院などにかかった場合、他の市町村になると支払いを求められることになり、不便という声が寄せられ

ていました。

子育て世帯からの近隣や他の市町村の医療機関でも同様に窓口負担ゼロを要望するお声や、後払いであっても、一時的に支払いをすることは、子育て世帯の経済的負担になるとの観点から埼玉県内全域の対象となる医療機関(主に県内にある保健医療機関(医科、歯科)及び保険薬局等が対象)での窓口支払いがなくなるように自民党県議団では、かねてより検討を進めておりました。

令和4年10月(一部令和5年1月) から実施、子育て世帯の経済負担 の軽減に効果。 安心して子育てできる埼玉県へ!

同じ子育て世代である宇田川ゆきお県議をはじめ、自民党県議団ではスピード感

をもって対応すべく議論を重ね、このたび実現することができました。これにより、未就学児に限り、県内すべての医療機関まで拡大させ、県内のどの医療機関であっても窓口負担ゼロ(現物給付)が受けられるようになります。

対象となる①乳幼児(子ども)医療費支給事業、②重度心身障害者医療費支給事業については、令和4年10月から、③ひとり親家庭等医療費支給事業については令和5年1月より拡大してまいります。今回の措置で、子育て世帯の経済負担も軽減され、一層の子育て支援が図ることができました。今後も宇田川ゆきお県議は自民党県議団の仲間とともに、皆様の声を伺いながら政策を実現し、子育て支援の拡充と拡大、安心して子育てできる埼玉県を目指し一層の努力をしております。

テンシヤルを高めるために！ 市としての八潮の魅力をつくろう。

議の政策テーマをご紹介します。第1回目は「都県境」としての八潮市についてです。次号では「子育て」をとりあげます。

その実現のためには、地域や住民の方の気運を高め、丁寧な議論の積み重ねが重要となってきます。

古新田地区のリバーサイドの特長をより一層高め、魅力を引き出すために、シンボリックな存在である大場川マリーナの施設全体が県の帰属となるよう令和2年度予算において実現を図りました。

現在、大場川マリーナの周辺では宅地開発が進み、まさにマリーナと一体となったまちづくりがなされようとしています。今後は都内にもアピールできる川を中心とした魅力的なまちづくりが期待されています。

これにより、既存の古新田の商店街の活性化を図るととも



に、水元から八潮への「人の流れ」をつくることできれば、都県境のまちとしての八潮の個性が発揮され、一層の発展につながります。

宇田川ゆきお県議は八潮市のポテンシ

ヤルを高めるため、これらの課題に今後も精力的に取り組んで参ります。

※都県境のテーマに関しては、本紙18号でご報告したように高島なおき都議(足立区選出)とも活発に意見交換をしています。

9月定例議会において補正予算成立! 予算額約1,765億円は過去最大

原油価格高騰や物価高騰への 緊急支援や経営改善、 新型コロナウイルス感染症対策を実施

9月定例会議において、過去最大規模となる1,765億1,218万9千円の補正予算【第4号】案の議決がなされ成立しました。内容については、①原油価格や物価高騰等を受け事業者・生活困窮者等への緊急支援として約88億円。②原油価格・物価高騰等の影響を受けにくい経営体質・生活様式への転換を促す支援として約15億円。③新型コロナウイルス感染症の拡大防止として約1,619億円。④在宅医療・介護等従事者の安全確保対策として約1億9600万円。⑤公共事業等(仮称・運転免許本部高齢者講習施設庁舎新築工事など)の追加として約17億4900万円となっています。

燃料高騰の被害を受ける トラック運送事業者への支援、 八潮市は独自の支援策も…

特に、①原油価格や物価高騰等を受け事業者・生活困窮者等への緊急支援のうち、トラック運送事業者の経営改善に対する支援として35億3,534万7千円が計上されました。これは、燃料価格の激変により経費増加などの影響を緩和し、事業継続を支援するための緊急的措置として県内の運送事業者に対し補助するものです。

また、八潮市においても市独自で「八潮市運輸事業継続支援事業補助金」により運送事業者の支援を行っており、市、県ともに運送事業者の方々への支援を行っております。

物流は生活の根幹をなす重要なインフ

ラです。経済構造として価格転嫁が難しいトラック事業者の方々への支援をすることで、経済の仕組みについても一石を投じることができるものと考えております。これからも県民の皆様、誰もが安全・安心に暮らすことができる埼玉県の実現へ向けて自民党県議団一体となってスクラムを組み、前へ前へと進めてまいります。





**計算能力は高いが、
「金融経済教育」は
置き去りに…。**

江戸時代から「読み書きそろばん」は、学びの基本でした。日本人の識字率の高さや計算能力が優れていたことは、明治時代に近代化を急速に進めることができた原動力だったとも言われています。文章を読み、文章を書き、計算することはできる人々の存在は、社会全体の市民度を押し上げていくための要因だからです。

また、そろばんで計算するという行為は、単に数式的な処理をするだけでなく、その過程にあって問題の全体像を的確に捉えて分析し、情報を操作しながら再構築する行為が伴います。当然、数的処理は、金融部門の分析や利益の確保を円滑に行うための能力開発に寄与することになります。

ところが、計算する学習をしながらも「金融経済教育」という分野に積極的に取り組んできませんでした。かつて、児童の貯蓄を奨励する目的で、小学校の児童が銀行や郵便局などと連絡して学校内で自主的に組織し運営する「子供銀行」「子供郵便局」という貯蓄制度がありましたが、「日本は貧乏な国だから…無駄をせずにお金をためて…」(「こども銀行の手引」昭和25年)という発想でした。子供銀行は平成13年4月、子供郵便局は平成19年3月に廃止されました。この制

度を一歩進めていけば「金融経済教育」の端緒得たのではと惜しまれます。

少子高齢化が進み、現実的に高齢者が自分の生活を守りながら、日々の安心・安全を担保するためには、お金とのかかわり方を熟知しなければなりません。

すなわち、「資産運用の大切さ」や「消費者トラブルの回避策」などを学ぶことが必要なのです。

さらに、計画的に貯めるよう方法や賢く使う方法を学ぶと同時に貯めたお金の運用の仕方などの知識も身につけなければと思います。

労働収入だけでは、人生100年時代を生き残れないと言うのであれば、「株式と債券の違い」や「投資信託の仕組み」「投資分散や長期保有の必要性」「ローリスク・ハイリターン」の危険性などの基本を知ることによって、経済的危機管理をすべきなのです。

「資産の運用は難しい」と言われながらも、必要性は認識されているわけですから、金融の知識を幼少期から得ることによって、人生の将来設計の一助に繋がっていくと考えられます。

**将来の不安払拭のため、
「金融教育」を学校の
カリキュラムに。**

日本の新たな発展を目指すには「金融教育を小中学校のカリキュラムに組み込み、将来の不安を払拭させるべき」と宇田川ゆきおは、県議会で提言しています(令和元年9月定例会)。今年6月26日(日)朝日新聞埼玉版に「埼玉りそな銀行が学校で金融経済教育を実施する」との記事が掲載されました。小・中・高校生向けのカリキュラムを示し、スペシャリストが出前講座を実施するとの内容です。公・民が協力した体制が動き始めています。

宇田川ゆきおは、これからも「金融教育」の必要性を訴え、次の世代が将来に備え、経済的にしっかりした基盤をつくることを目指します。さらに専門的な私学のノウハウを公教育に取り入れる仕組みが必要との思いから、私学との連携を構想しています。これらを通じ、日本の経済成長とGDPの底上げにつなげていきたいというのが宇田川ゆきおの考えです。



令和4年度「東埼玉道路建設促進期成同盟会」(行政関係)並びに「建設促進協議会」(商工会関係)による知事要望と議長並びに東埼玉道路及び周辺整備建設促進議連に対する要望活動



新型コロナの最新情報は
こちらから～ぜひご利用ください～



埼玉県LINE公式アカウント
埼玉県-新型コロナ対策
パーソナルサポート

まずは「友だち登録」から。
新型コロナウイルスに関する
情報をお知らせします。



ご意見をお寄せ下さい

宇田川ゆきお県政事務所

〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055
FAX.048-934-7099 E-mail.contact@udagawayukio.com

情熱 責任
真摯 覚悟

埼玉県議会議員

宇田川 ゆきお

県政報告

令和4年 12月25日発行 12月号 Vol.20

発行:埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所 〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055 FAX.048-934-7099



新型コロナウイルス発生が「政治」を問い直した!

新型コロナウイルスの感染拡大が確認されてから3年になろうとしています。未知の分野のウイルスであることから、感染の経緯・症状・治療・予防等への対応の方法が分からずパニック状態に陥りました。

中国で最初の症例が見つかり、その後、世界各国に広がったものですが、世界中が今も苦慮しています。特に基礎疾患がある人は危険な状態になる可能性が高く、コロナウイルス感染者の病床確保が大きな問題になりました。

また、治療方法の確立と同時にワクチン接種を積極的に進め、変異株にも効果があるように4回・5回と回数を重ねています。これは、感染予防と感染症状を軽減する意味で成果が出てきています。ここへ来て第7波から第8波へ感染者の増加が危惧されていますが爆発的な数字にならない気配です。

2023年に向かって 巻頭所感 政策を推進、全力で課題を解決!

危機に備え、社会・経済・命を守る

一方でコロナにより日常生活が破壊され、あらゆるところで規制や行動制限がかかり、社会も経済も窮屈な状況において、可能な限り市民生活を守るための政策を実施してきているところです。

伝染病に対する予防・治療をはじめ経済対策に至るまで対応するのは政治であり、危機管理能力を発揮するのは自治体の重要な役割です。自治能力や政策遂行力が問われると言うのは、市民の命と生活を守る体制が整っているか否かが評価されるからです。

このような意味で政治の存在を再認識すべきなのです。社会の仕組みにおいて、社会運営の方向を決めることが政治だからです。

土を耕し、実りを得る…、その姿勢から学び、行動する

私は、八潮生まれの八潮育ちです。父は農業を営みながら市議会議員として活動し、母は父と共に「土」との営みを続けてきました。父母、そして地域の農家の方々の背中を見て育った私が学んだのは、作物(成果物)を实らせるため

の日々の努力と肥培管理の重要性でした。

市政・県政を農地に例えるなら、人々の求める地域社会を作るためには、肥料・水やり・整地・耕耘・除草・害虫駆除などの管理をしなければならないということです。人々の求める政策(作物)を植え、あらゆる政治手法(肥培管理)を駆使することなのです。

私は、八潮市選出の唯一の県議会議員として、日々、子育て行政、産業振興、ふるさと八潮の活力づくりやイメージアップなどを中心に全力で取り組んでいるところです。

地域の皆様の声を伺い、みなさまの願いを市政と連携、県政からバックアップし、かたちにするのが私の使命です。農業を通じて知った不断の努力、八潮の土を耕す意識の大切さを忘れずに、先見性を持ちながら、地域課題の解決に前進して参ります。

埼玉県議会議員

宇田川幸夫

【経歴】●八潮市立八條中学校卒業●浦和実業学園高校～東京コミュニケーション専門学校卒業●明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科修了MBA(経営学修士)●八潮市議会議員選挙にて初当選

●平成21年、八潮市議会議員選挙にて二期目当選●平成27年、埼玉県議会議員選挙にて初当選●平成31年埼玉県議会議員選挙にて二期目当選●現在:県議会・自然再生・循環社会対策特別副委員長●議会運営

副委員長、福祉保険医療委員長など歴任●所属団体:八潮市商工会青年部OB会、八潮市消防団、八條有志クラブ他
www.udagawayukio.com/





小倉まさのぶ・こども政策担当大臣と…

宇田川ゆきおの 政策テーマ 「子育て」

八潮は「 国、県、市」

大臣との対談と決意

子育て世代の議員として
皆さんのご意見をもとに
最先端の子育て政策を！

先日、宇田川ゆきお県議は、小倉まさのぶ内閣府特命担当大臣（こども政策担当）を訪問し、大臣室で意見交換を行いました。小倉大臣は子育て・教育問題に精通しており、日銀出身で金融政策にも明るく、宇田川ゆきお県議と同じ40歳代、若手の政治家として問題意識を共有するなかで活発な議論が交わされました。

この場を通じて感じたことは、子育て世代の議員が少ないこと、さらにこの世代は第一線で仕事をするなかで、家庭においては子育てをしている方々が多いこと、その一方で積極的に政治に対して意見を上げにくい世代であることでした。そして若手議員が自らの経験や周りの声を聴き、その代弁者として政策をつくっていくことが重要だということでした。

小倉大臣からも熱い激励を受け、宇田川



ゆきお県議は、皆様の声を大切に、子育てを取り巻く環境の変化を敏感に受け止め、最先端の情報や知見をもとに政策を進めていく決意を新たにしました。世界基準の政策を埼玉県が先頭に立って実行し、八潮市が「子育て先進都市」になるべく、これまで以上に精力的に取り組んでまいります。

子育て支援が日本の最大の課題

宇田川ゆきおの主張してきた
埼玉県版ネウボラを拡充。
子育ての負担軽減を図る！

厚労省から公表された人口動態統計速報によれば、今年の1月から9月までの出生数は59万9,636人であり、昨年同期間比マイナス4.9%となっています。これは、危機的な状況にあるといえ、このペースで推移すれば、今年統計開始以来、初めて80万人を下回る可能性があります。

出生数の低下は、国力を衰退させることにつながると専門家も指摘しています。出生数の低下は様々な要因があると考えますが、国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生同行基本調査（夫婦調査）」によると、「妻の年齢別にみた、理想の子供数を持たない理由」のどの年代のトップも「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」となっており、妊娠から子育てまでの経済的な問題や核家族化や地域社会の在り方の変化もあり、妊娠や子育てに対する不安も一因となっているものと推察されます。

宇田川ゆきお県議は、県議1期目から埼玉県版ネウボラを主張するなど、一貫して妊娠から出産、子育てに注力してまいりました。妊娠から出産・子育てまでの身近な伴走型の相談支援と、経済的な支援を合わせたパッケージでの支援の必要性を訴え

てきました。今後は相談支援と経済的な支援等をパッケージで実施することによって、相談機関へのアクセスをやすくし、産前・産後ケアや一時預かり、家事支援サービスなども活用しやすくすることで、妊娠・出産・子育ての精神的・身体的・経済的な負担軽減を図ることを目指しています。

宇田川ゆきおの子育て支援の考え方

4種類の支援を核として
ステージごとに対応。
だれもが使いやすい支援へ！

宇田川ゆきお県議は、子育て支援について、子育て世帯目線で、だれもが使いやすい支援を、子育ての各ステージ（妊娠から出産の産前産後、子育て、就学前、就学後）に応じてすべきと主張します。支援内容としては、ベースとしての経済的支援、さらに個人の状況に応じた経済支援、教育支援、さらにこどもに応じた学習支援の4点を核に展開することを提案しています。

現役世代の子育て・教育に関する経済的負担軽減は、仕事との両立だけでなく、精神的にも開放され、豊かな子育て環境へとつながります。この循環を生み出すため、今後、予防・医療・介護・金融システムに焦点を当てた政策を考えています。

産前産後ケアについて

孤立しないことを第一に！
ケアマネージャー的な
仕組みの導入を目指す

出産前の精神的なサポートとあわせて、生み育てるための知識や情報等も十分得られる安心できる出産の体制の構築が必

「子育て先進都市」になる！ の連携で実現へ

シリーズで宇田川ゆきお県議の政策テーマをご紹介します。
第2回目は「子育て」を中心に取り上げます。
次号のテーマは「教育」です。



小倉こども政策担当大臣から熱い激励を受ける！

要です。さらに家族の形態変化への対応が重要です。今までは家族構成が3世代にわたり役割を分散することが出来ましたが、現世代では、一人ですべてを賄う状況であるため、買い物から、病院への移動、自分自身へのケアが行える支援を整えなければなりません。

出産については公的資金により経済的負担を最小限に軽減し、入院の期間は気持ちや体調、おむつや母乳等のサイクルが安定するまでの期間、入院期間を10日ほどにすべきと考えています。個人の現状に合わせ期間は延ばすことも必要ですが、母子父子の子育てにおける知識や情報もここで取得できるようにすべきです。

ここでも母子父子を一人にさせないための支援が必要で、個人に合わせたきめ細かい支援を助産師や子育てケアマネージャーのような1人に1人が相談できる体制の構築が不可欠です。高齢者におけるケアマネージャーが機能してきたように、産前産後ケアが機能し熟成されることで確立できる

と考えています。宇田川ゆきお県議は自治体の先行事例をもとに、その横展開を国と県がともにサポートできるよう予算化をダイナミックに働きかけてまいります。

就学前の重要性

まず、幼保の垣根を無くし、
将来は幼児教育の義務化を
目指していくべき！

就学前に関しては、保育園・幼稚園の垣根をなくし、その保育園・幼稚園の独自の教育や生活スタイルに合わせた選択がとれるようにすべきというのが宇田川ゆきお県議の持論です。

幼児教育はすべての子どもが受けられるよう義務化すべきと考えます。この時期の教育は就学した時の個人差をなくすためにもその子の能力や、特異性を早期に把握するためにも大変重要です。将来的には、幼児教育を選択してだれもが受けられるよう

制度設計を訴えてまいります。

初等中等教育～起業家教育を基本に～

教育が国の活力を生む！
先進的な教育カリキュラムを
埼玉県から発信したい

まさにここからは世界に遅れをとってきた教育を実行させる中心課題です。宇田川ゆきお県議が以前から主張しているように、金融教育と起業家教育が重要です。この二つは義務教育でやらなくてはならないと強く感じています。その中でも起業家教育を基本とすべきです。

起業家教育には2つの要素があり、起業家を育てる教育と起業家の素養を養う教育です。後者の起業家の素養を養う教育を義務教育で行う必要があると捉えています。つまり、0から1を創り出す力、そして、目標を定めたらどのように達成することが出来るかを自分自身で考える力、論理的思考をここで訓練し身に付けることが極めて大切です。

社会的な課題や自分自身の課題を自ら見つけ、解決に導くことが、グローバル社会で生き抜き、海外で戦える力であり、日本に求められているものです。論理的思考と起業家の素養を身に付けていながら、世界から後れをとっている金融教育を進めていくことは子どもたちのキャリア教育にも大きく寄与できるものと確信しています。

その動きを埼玉県から発信していくのが宇田川ゆきお県議の今の想いであり、活動のテーマです。

新型コロナの最新情報は
こちらから～ぜひご利用ください～



埼玉県LINE公式アカウント
埼玉県-新型コロナ対策
パーソナルサポート

まずは「友だち登録」から。
新型コロナウイルスに関する
情報をお知らせします。





これまでの主な八潮関連事業のご紹介

宇田川ゆきおが強力サポート



① 八潮北部振興～(仮称)外環八潮パーキングエリア周辺の整備ついて～

八潮の北部振興については、(仮称)外環八潮パーキングエリアと(仮称)外環八潮スマートインターチェンジの設置を中心としたまちづくりについて、かねてよりお話しをさせて頂いているところで、進捗状況としては、大山市長による着実な国との交渉により、(仮称)外環八潮スマートインターチェンジの事業化が決定されました。スマートインターチェンジが開通すれば、市内の皆様の利便性の向上はもとより、県東南部の新たな交通の要として物流をはじめ産業の活性化、命をつなぐ救急救命体制の強化などの効果が期待されます。

スマートインターチェンジと(仮称)外環八潮パーキングエリア事業を契機に八潮の北部地区に光をあてた事業展開については、今後とも、大山市長としっかりと連携し、市・県・国が一体となり、先端的な野心的な取り組みができるように地域の皆様や関係機関と連携をしながらあらゆる可能性を探ってまいります。この地区が国のモデル地区となるように強い決意をもって皆様とともに着実に前へ進めてまいります。

② 葛西用水の親水化事業

葛西用水親水化事業がH29年予算で決定されました。これにより、葛西用水の歩道の整備がなされ、朝夕はウォーキングを楽しむ方々、日中は子ども達の声が響きわたり、にぎわいをみせています。このように整備された空間は、八潮の特長である水と緑が調和し人と人が触れ合う場所になりました。

また、八潮市の一戸一灯運動により葛西用水沿いのフェンスに市の事業によりソーラーライトが設置され防犯対策、地域の安心安全としても活用されており、県と市が一体となり八潮の地域資源を引き出した有効事例となりました。

八潮らしい自然と調和した憩いの空間をつくり「住みやすさナンバー1のまち」八潮にフィットしたまちづくりをこれからも進めてまいります。



③ 県道草加三郷線西袋工区の整備事業(柳之宮橋の架替え)

この事業は、綾瀬川を渡河する柳之宮橋を含む延長約580m区間の現道を2車線から4車線に拡幅する事業であり、さらに八潮市が施工する土地区画整理事業として柳之宮橋から県道越谷八潮線までの約350m区間も併せて整備し、老朽化していた柳之宮橋の架替えも行うものです。

西袋にお住まいの方の利便性・安全性だけでなく、草加三郷線は県東南部の新たな流れを呼び込む動線として産業の活性化が大いに期待できる路線です。柳之宮橋については、現在仮橋にて運用がされているところです。

架替えは5つのステップを踏んで行われており、現在は4つめのステップまでできたところです。最後のステップは新しい橋の架替えが完了後、仮道路から完成道路への切り替えを段階的に行い、4車線道路が完成することで、令和10年の完成を予定しています。工事中はご不便をおかけしますが、何卒ご理解をいただき、完成後の大きな流れの変化に伴う地域の発展にしっかりとコミットできるように力を注いでまいります。



④ 大曾根交差点の右折レーンの設置

大曾根の交差点は、交通量の多い県道越谷八潮線(通称「産業道路」)につながる渋滞が起こりやすい地点であったため、大原方面から越谷八潮線への右折専用レーンを設置することで渋滞の緩和を図りました。また、商業施設や金融機関があるため歩行者も多い交差点ですので、歩道の整備を行い、歩行者の安全も確保することができました。こうして市内の渋滞緩和と交通安全の強化に資する交差点となりました。

また、人口が増加し、産業道路をはじめ交通量の多い八潮市においては、都県境という地理的特性もあり、警察力の向上は重要課題です。そのための警察署の誘致を市も熱心に取り組んでいます。この実現に向け、市もしっかりとタッグを組んで、県に強く主張してまいります。



⑤ 自転車歩行者道整備事業(県道越谷八潮線)

県道越谷八潮線(産業道路)は、工場等があり物流の大動脈の一つとして大型車をはじめ交通量の多い路線です。また、沿線には商業施設などもあり日常生活に必要な道路でもあります。そのため、車だけでなく自転車や歩行者の往来の多い道路であり交通事故の危険性が高い路線です。

交通事故リスクを軽減し、安全に安心して利用できるように自転車歩行者道の整備を現在行っています。車に乗る人も自転車に乗る人にも歩行者にも優しいまちづくりをこれからも取り組んでまいります。



ご意見をお寄せ下さい

宇田川ゆきお県政事務所

〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055
FAX.048-934-7099 E-mail.contact@udagawayukio.com

情熱 責任
真摯 覚悟

埼玉県議会議員

宇田川 ゆきお

県政報告

令和5年
3月25日発行

春号 Vol.21

発行:埼玉県議会自由民主党議員団 宇田川ゆきお県政事務所 〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055 FAX.048-934-7099



宇田川ゆきお県議 今後の活動方針と政策を 発表! 2023年版

UR都市機構の広報に「まちづくりは長きにわたるくらしの舞台づくり」とあります。まさに八潮市民の日常生活のあらゆる側面をサポートするのが政治であり、それをリードしていくのが政治にかかわる人々です。

私は県議会議員として市政・県政・国政へ「くらしの舞台作り」へ、向けて提言・提案・実行を繰り返して参りました。

活動を展開する中でさまざまな人脈に恵まれ、多くの政策調整が可能になったと思っています。

この度、基本的な政策を5項目に分けて、整理し、発表しました。①**子育て・教育**②**医療・福祉**③**安全・安心**④**基盤整備・環境対策**⑤**地域活性化**です。2頁以降に抜粋してありますので私の基本的な政治スタンスとしてご理解頂ければと思います。

とりわけ地域活性化の交通インフラの整備は市民の利便性向上のための施

策であります。地下鉄8号線の豊洲～住吉は2030年代半ばの開業が目指されており、さらに八潮までの延伸を具体化するため、今後も活発に働きかけて参ります。つくばエクスプレスは車両8両編成化も迫っています。私はこれら諸課題に県政の立場から切り込み、八潮市のまちづくりに全力投球して参ります。皆様のご意見をお待ちしております。

埼玉県議会議員

宇田川幸夫

2023年 宇田川ゆきお政策(抜粋)

Power Up

八潮&埼玉



大山忍・八潮市長と
力を合わせて!

2面以降に抜粋掲載

【経歴】●八潮市立八條中学校卒業●浦和実業学園高校卒業●東京コミュニケーションアート専門学校卒業●明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科修了MBA(経営学修士)●平成17年八潮市議会議員に初当選●平成21年、八潮市議会議員に二期目当選●平成27年、埼玉県議会議員に初当選●平成31年埼玉県議会議員に二期目当選●現在:県議会・自然再生・循環社会対策特別副委員長●議会運営副委員長、福祉保険医療委員長など歴任●所属団体:八潮市商工会青年部OB会、八潮市消防団、八條有志クラブ他

www.udagawayukio.com/





2023年宇田川ゆ

Power Up

01

子育て・教育

子育て先進都市・ 教育充実都市へ

宇田川ゆきおは、それぞれの実情にあった子育て支援で「子育て先進都市」を目指します。また、県との連携を強め「教育充実都市」を目指します。良い教育のあるまちは、地域の力を高め、次世代の発展を産み出します。宇田川ゆきおは、首都圏の子育て適齢期世代を呼び込み、八潮の活力アップと人口増を図ります。



- ①福祉3医療費無償化の年齢制限の引き上げ。
- ②超少子高齢化社会が進展する中で埼玉県独自の出生1人目からの支援の拡充を図り3人目以降の補助制度を2人目から前倒し。
- ③出生一時金制度の拡充を八潮市プラス地域割り増し分で支援し、将来の保険制度化とさらなる充実を図り、出産環境を整えます。
- ④産前産後ケアを強化し乳幼児の健やかな発育のため、乳幼児検診の回数を増やすとともに、保健センターなどに子育てサポートカフェ等併設し、気軽に検診・相談でき、総合的な子育て支援ができるように機能を充実させます。
- ⑤スマホによるスクリーニングできめ細か



小倉まさのぶ・こども政策担当大臣と

- なプランを個別に策定し、必要なサービスをスマホで予約、DX化で更に便利に。アウトリーチ・デイ・宿泊型等の支援を確実に届け、心身と経済的な負担をゼロへ
- ⑥埼玉県東部教育事務所と協力し、優秀な教員を八潮市内の小中学校に確保します。
- ⑦八潮高校周辺の環境整備を進めます。また、県立高校に専門講座を開設し、個性と特色ある高校として魅力を高めます。
- ⑧幼保小中高大学の連携を強化し、八潮発日本の幼児教育モデル地域を創設します。
- ⑨市の進める首都圏の大学との連携を後押ししつつ、私立大学のノウハウを教育に導入し、さらに教育や産業に研究成果を活用できる環境整備を促進します。
- ⑩青少年の自然教育の充実を目指し、中川河川敷に県立野外活動センターを設置します。
- ⑪1000年を超えた八條遺跡の調査報告をもとに県レベルでの紹介、啓発に取り組みます。

- ⑫県として「食育」を進め、八潮の給食のため、リスク分散を含めたサポートをします。
- ⑬子ども食堂を強化し、地域の世代を超えた交流を進めるとともに、災害時の支え合いを目指します。
- ⑭キャリア教育のなか、特に金融教育と起業家教育をカリキュラム化し、0から1を創り出せる、新しい価値を創造出来る教育を目指します。
- ⑮子どもの連れ去りを欧米レベルの体制整備、共同親権・一方的な連れ去りは犯罪であることの周知・面会計画・相談窓口を強化します。

Power Up

02

医療・福祉

人生100年時代へ 健康寿命をサポート

暮らしの安心は、医療や福祉と密接に結びついています。特に女性の方々の負担も高いことから、総合的に政策を展開し、女性の方々の負担軽減を図ることが重要です。宇田川ゆきおは、医療・福祉の充実、家計にも優しい手厚いサポートの実現を目指します。そして「人生100年時代」の健康寿命をしっかりとサポートしていきます。



- ①県費を導入し、社会福祉協議会の運営補助を通じ、新たな役割分担を強力に推進、施設の充実も図ります。

udagawa
NOTE

国・県・市の連携で政策を動かす。 県の立場で選択・集中・投資の発想を！

政策を実行する際、どうしても国・県・市の行政による役割分担の壁にぶつかることがあります。その解決のポイントを私は市、県、国を巻き込んだ政策のパッケージ化をどこまでできるかだと考えています。私が国会議員や都議会議員などの方とネットワークをつくっていくのはそのためです。市単独では出来ないこと

を県が仲立ちをし、国と協議して実現していく。そのマネジメントが求められています。さらに公共事業の中にも、県が積極的に選択と集中、そして投資の発想を活かし、市外から人やモノ、資金を呼び込む大きなプランを創るべき時期にきていると考えています。それを後押しすることも私のこれからの使命と思っています。



助産師・直井先生と
子育てママさんたち
との意見交換会

- ②救急医療と救急車の機能を拡大させるための機器補助成制度を確立します。
- ③草加保健所八潮分室(仮称)を設け、きめ細かな保健所業務を遂行します。
- ④県と地域医療機関との連携を進め、緊急時や高度医療を含めた地域医療の充実を図ります。
- ⑤埼玉県と八潮市が協力して障がい者のための入所施設を充実、働き場の確保を進めます。
- ⑥県、市との連携で、保育、介護、医療従事者などを含めた勤労者の労働環境の向上を図ります。
- ⑦お年寄りの介護施設については、県・市・民間活力の協働により整備します。
- ⑧シルバー世代の健康増進に向けてグランドゴルフ場やその他の健康増進関連施設の整備を進めて参ります。
- ⑨高齢者の社会参加、推進に向け、シルバー人材センターやグループホーム等を充実します。

- ⑩多様性を尊重した就労センターを強化し、働き方や多様なニーズをサポートします。
- ⑪DV被害の女性を保護するため、警察・保健所・市が一体となった支援と解決への体制を築きます。
- ⑫在宅医療・処方箋の配達等を充実させ、IT・交通弱者でも医療提供を充実させます。
- ⑬ケアラー・ヤングケアラーが欲しいサービスに繋がるようにします。とくに自分の時間や、負担軽減につながる政策を実行します。
- ⑭ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)の理念を大切に、多様性を認め、1人1人が差別なく尊重される社会づくりを進めます。
- ⑮動物愛護を欧州レベル制度にするため、ブリーダー制の国家資格・悪質業者の立入り強化・動物愛護推進委員の機能・権限を強化します。



青木かつのり葛飾区長と

市民の防犯活動の意識の向上と防犯設計(CEPTED手法)によるまちづくりを進めます。さらにゲリラ豪雨も近年、頻発する中、水害・洪水に対し、治水安全度を高め、東日本大震災の教訓をもとに地震に対する広域的な防災体制を国、県、市と確立します。



- ①八潮市に警察署の建設を目指し、それまでは警察官の常備待機を進め、OB・民間の力を活用して安心なまちを実現します。
- ②道路信号を増設し、歩行者の安全と自動車の渋滞解消を目指します。
- ③道路標識やガードレール整備をし、八潮市内を交通安全モデル地域に指定します。
- ④洪水に備えるために排水機場を強化し、土のう置場や移動式ポンプを配備します。
- ⑤中川、綾瀬川などの護岸整備の優先順位を高め、速やかに工事に着手します。
- ⑥県立高校を特殊避難所に指定し、お年寄りや障がい者などの弱者専用施設に整備。
- ⑦大場川マリーナの観光資源の開発・強化と非常用棧橋を設け、緊急時の水上交通による物流手段の確保をします。
- ⑧中川やしおフラワーパークにヘリポートを建設し、緊急時の病人搬送等に備えます。
- ⑨エコボートを導入し、平常時は親水意識の高揚をはかり、非常時は避難用に活用します。
- ⑩県と市の連携により、国や県の高層建築、高層住宅所有者との水難・避難互助協定の締結を推進します。

〈4面へ続きます〉



動物愛護条例改正案の提案者代表説明

Power Up

03

安全・安心

地域の皆様の生命・財産・暮らしを守る!

地域住民の生命と財産、暮らしを守ることは、政治の本分です。宇田川ゆきおは、安心して暮らせるまちの実現のため、防犯対策を充実させ、埼玉県との連携を図り、

udagawa NOTE

徒歩圏内で安心・便利に暮らせるまち 国のスマートシティモデルの実現化へ!

私は、八潮のまちづくりのイメージを徒歩圏内で安心して便利に暮らせるまちが目標にと思っています。徒歩圏内でみんなが欲しいものが成り立つ街は、子どもからお年寄りまでに優しいまちです。徒歩圏内に医療・福祉・教育・イベント・公共施設・買い物等が出来、交流・循環できるようにしていきたいと考えています。その

ためには地域毎に核となる公共施設をつくることはもちろん、ICT(情報通信技術)を積極的に導入し、八潮のスマートシティ化が有効です。県の権限・予算を利用し、国が進めるスマートシティ事業を活用することで、IT・交通弱者をなくし、あらゆるインフラの向上を図る。コンパクトな八潮市だからできると思っています。

2023年宇田川ゆきお政策(抜粋)
【3面からの続き】

Power Up 八潮&埼玉

Power Up 04 基盤整備・ 環境対策 地域の便利・快適を増進

八潮市は都県境、市境とのアクセスが課題です。宇田川ゆきおは、老朽化した橋の架け替えや、交通網の整備を進め、都市機能の充実や向上を図ります。

さらに、まちの快適性を高め、川の水を浄化、エコや環境にも配慮します。さらに県の「みどりと川の再生」施策の成果を活かし、八潮独自の川の文化を育み、まちの個性と魅力につなげていきます。



- ①市内の都市軸道路(国道・県道)について優先順位を先行させながら早急に整備します。
- ②県道の道路段差を解消しながらバリアフリー化を積極的に進め、安全なまちをつくりまします。
- ③県道整備に関しては、新たに街路樹を植えたり、補植しながら環境整備に取り組まします。
- ④道路の補修や清掃に関し、八潮市を管轄している越谷県土整備事務所との連携を強化し、整備・充実を図ります。



- ⑤新橋建設や老朽化した橋の架け替えを進め、良好な交通環境の実現に全力を尽くまします。
- ⑥観光と賑わいを創り出すため、川を利用した舟運を見直し、川の駅構想を具体化するために県との調整を進めまします。
- ⑦綾瀬川、葛西用水等の親水化を進め、遊歩道ネットワーク化を図ります。
- ⑧中川河川敷を利用した水と緑の県立水辺公園構想を提案して参ります。
- ⑨自転車優先レーンや専用道を整備し、歩行者に優しいまちづくりを推進まします。
- ⑩電線地中化を計画的に進め、環境に配慮した豊かな水と緑の回廊公園構想を実現まします。

Power Up 05 地域活性化 八潮の「元気」 「活力」を創造

八潮は埼玉県の東南部で、東京への新しい玄関口となる可能性を秘めてまします。さらに北部にはパーキングエリアとスマートインターが構想され、新たな地域の核となることが期待されてまします。

宇田川ゆきおは、八潮を南部と北部の2つの力で活性化し、県の力を呼び込んで、八潮市の進める「住みやすさナンバー1のまち」の実現に力を合わせまします。

県との密接な連携で、県の進める「埼玉農業の競争力強化」「世界水準の中小企業育成」を先取りして、農商工の活性化に取り組まします。



- ①北部パーキングエリアとスマートインターの建設を促進し、自然と教育や新産業を誘致したモデル地区をつくりまします。
- ②地下鉄8号線を構想段階から「延伸決定」へ。周辺関係自治体と協力して参ります。
- ③中川新堤防建設に合わせ、下妻街道平安の道を観光スポットとして整備まします。
- ④東埼玉道路に県主導による農商工複合「八潮道の駅」を建設し、新たな道の駅の展開を進めまします。
- ⑤先端産業の誘致と地域企業とのマッチングを支援するとともに、各企業の経営力向上、ブランド化を後押し、本店機能を誘致まします。
- ⑥中川堤防沿いにサイクリング道路を整備し、多様な交流の場とスポットをつくりまします。
- ⑦八潮金町線の整備を促進し、葛飾区と新橋の建設を目指まします。災害・公共連携による安全と活性化を図ります。
- ⑧県立中小企業支援センターの機能を誘致、中小企業の情報・研究・資金等をサポートまします。
- ⑨市街化調整区域(495ha)を「自然と賑わい」との調和を軸に調整してまちの新たな発展に役立てまします。



新型コロナの最新情報は
こちらから～ぜひご利用ください～



埼玉県LINE公式アカウント
埼玉県-新型コロナ対策
パーソナルサポート

まずは「友だち登録」から。
新型コロナウイルスに関する
情報をお知らせまします。



ご意見をお寄せ下さい

宇田川ゆきお県政事務所

〒340-0801 埼玉県八潮市八條393 TEL.048-932-4055
FAX.048-934-7099 E-mail.contact@udagawayukio.com



自民党県議団ニュース

【秩父地域・特別拡大版】



植樹祭の開催候補地、秩父に決定！

天皇皇后両陛下が秩父に

令和7年に埼玉県で開催が内定している「全国植樹祭」の会場となる開催候補地が秩父地域（秩父市・小鹿野町）に決定しました。県内の開催地を巡って昨年約9カ月間、県の準備委員会において、所沢、春日部、伊奈、秩父の4地域の何れかを選定する会議が行われ、5月19日に開かれた委員会において「秩父」が開催候補地に決定しました。今後、8月に埼玉県が開催県として正式決定し、埼玉県による9月の植樹祭実行委員会の発足を経て、11月頃には秩父ミューズパークが開催会場として正式決定する見込みです。

「全国植樹祭」は国土緑化運動の中心的な行事として昭和25年以来、天皇皇后両陛下のご臨席のもと全国各地から緑化関係者の参加を得て、両陛下によるお手植えや大規模なイベント等を通じて、国民の森林に対する愛情を培うという目的で毎年開催されます。埼玉県では66年ぶり2回目の開催となり、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぐ事ができれば、秩父地域だけでなく埼玉県にとっても大変名誉なこととなります。この開催地の誘致については、秩父市の北堀篤市長を筆頭とする誘致委員会や、新井豪県議が会長を務める議員連盟による粘り強い誘致活動が実を結んだ結果であり、大滝トネル、長尾根トネル事業に続いて、秩父の政治力の結果が大きな成果を挙げました。今後は埼玉県が開催県として正式決定した後、県や市による準備作業が進められます。



この植樹祭の開催地となることで、県産木材や地元自然環境が全国の緑化関係者等にPRされるだけでなく、当日に数千人が来訪することによる経済効果も期待できます。また、開催前年頃から気運を高めたためイベントやキャンペーン等による効果も見込まれ、会場となるミューズパークの整備や会場設営のための公共投資も大きな規模になることが予想されます。殆どの開催地において、数千人の来訪者を安全に迎えるために、会場周辺や市街地の道路整備も実施されています。そして、植

「全国植樹祭」開催 地元への効果は？



樹祭には多くの地元の子供たちが参加することになります。この植樹祭に携わり、秩父の子供たちが地元の自然の素晴らしさに気付き、森林を愛する気持ちが育まれることこそが何よりの「地元への効果」として期待されます。



新井 豪（あらい こう）
【プロフィール】
昭和50年12月12日生まれ（46歳）
・秩父第二中学校
・熊谷西高等学校
・米国テール大学卒業
・コンサルティング会社勤務
・衆議院議員秘書
・秩父市議会議員（2期）
【県議会・自民党での主な経歴】
・県土都市整備委員長
・環境農林委員長
・副議長（戦後2番目の若さで就任）
・自民党県議団副団長

県議会の2月定例会において、令和4年度の監査委員に新井豪県議（秩父市）と小川真一郎県議（深谷市）が選任され、知事から任命を受けました。監査委員は県の主に財務に関する事務等について「法令に違反していないか」、「効率的に行われているか」を監査し、その結果を県民に広く知らせる責務を負っています。



定峰トンネル、効果について調査開始へ

定峰トンネル構想

秩父地域と東秩父村〜嵐山小川インターチェンジを結ぶ「定峰トンネル（仮称）」の事業化の可能性について検討するため、トンネルの費用対効果や整備効果について、埼玉県が7月頃から調査を開始することになりました。この「定峰トンネル」は秩父市の北堀篤市長が県議会議員時代から提案を続けている構想で、嵐山小川ICに接続するだけでなく、埼玉医大病院や小川赤十字病院等への救急搬送の所要時間の短縮、行楽シーズンの国道渋滞の緩和など、国道140号・299号に続く秩父地域へ接続する第3の幹線道路として期待されます。この定峰トンネルの整備については、西田まこと参議院議員の仲介によって斉藤鉄夫国交大臣に直接要望を行っております。



▲斉藤国交大臣に定峰トンネル建設支援を要望

大滝トンネル、本格的に掘削開始

5月から本体工事が開始された大滝トンネルでは、トンネル坑口において安全祈願の祭典が執り行われ、本格的な掘削作業が開始されました。このトンネル整備を請け負った共同企業体の従業員、トンネル工事を専門とする作業チーム、県職員の皆さんが一堂に会して関係者皆さんの無事と安全が祈願されました。この本体工事は交代制をとって24時間体制で掘削作業が行われ、およそ3年の工事期間を予定しております。周辺道路を含めたトンネル整備事業の予算は総額で99億円、この本体工事に携わる従業者は延べ



2万4千人となり地元の利便性向上だけでなく大きな経済効果も期待されます。



長尾根トンネル、地元で説明会

3月に事業化が決定した「長尾根トンネル」の今年度から始まる現地調査について、複数の地元町会で説明会が開かれています。このトンネルとバイパスは西関東道路整備の一環として整備される計画であり、小鹿野町からの接続道路とも

合流する道路となる見込みです。この説明会において新井豪県議は「こうした大きな整備事業で最も大切なのは地元の方々のご理解です」と挨拶されました。この長尾根トンネルや大滝トンネルの事業化には、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、そして東秩父村の市町村議員で構成される大きな議員連盟（会長・新井県議、幹事長・阿左美県議）に、関口昌一参院会長を始めとする国会議員、1市4町1村の首長の支援が加わり、秩父郡市の政治力を結集させてこの様な大きな事業が次々と実現されています。



▲事業説明会



▶関口昌一参院会長